

令和2年度 津田中学校 学校評価

	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	活動計画	評価指標	評価		学校関係者の意見
学習指導	<p>1.「わかる授業」の実践や言語活動の充実を図ることにより、「確かな学力」の習得を図る。</p> <p>2. 生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>1. 学力向上実行プランを基に、「わかる授業」構築のため、「学習のめあて」等を示し、グループ学習・ICTの活用などを通して、目的に応じた表現活動を取り入れる。</p> <p>2. 家庭での学習課題のやり方を学校ホームページを活用して説明する。また、定期テスト期間や長期休業中には学習記録をつけさせることで、より家庭学習の充実を図る。</p>	<p>1-①.「授業がわかる」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>1-②. 自分の考えの根拠を明確にして「書いたり話したり」する生徒が60%以上となる。</p> <p>2.「家庭学習が習慣化している」と答える生徒・保護者が80%以上となる。</p>	<p>1.「授業がよくわかる、わかる」と答えた生徒が87.5%あり、昨年より5%ほど増え指標を達成した。また「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場を設けている」と答えた教師も91.7%となっていることも増えた要因と考えられる。</p> <p>2.「家庭学習の時間をきちんと確保している」とする生徒が81.3%であった。今年の4・5月に新型コロナウイルス感染予防のための臨時休があったため、家庭学習で課題を仕上げ提出する習慣がついたことが影響したと考えられる。</p>	<p>○「わからない」と答えた生徒がいるため、それらの生徒に対して、指導の改善していく必要がある。勉強の仕方や何がわからないのかがわからない生徒も多いので、その手立てを考えよう。</p> <p>○わからなくても何も反応がない生徒が多くなっているため、わからない生徒をみつけていく必要がある。</p> <p>○家庭学習でも、出来ない生徒への支援や工夫が必要となってくる。</p>	<p>新型コロナウイルス予防のための臨時休があったから、家庭学習が習慣化したというわけではなく、どんな状況でも家庭学習の重要性を意識した上での取組が必要である。</p> <p>また、さらに「わかる授業」の実践のため、GIGAスクール事業により導入される一人一台のタブレットの活用のため、教職員のICT技術・技能の向上も今後の課題である。</p>
生徒指導	<p>1. 自ら進んでする自発的なあいさつの定着を図る。</p> <p>2. いじめの予防・早期発見・生徒理解を深め、相談体制を確立する。</p>	<p>1. 教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。</p> <p>2. 学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。</p>	<p>1.「自ら進んで、あいさつがきちんとできている」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。</p> <p>2. いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。</p>	<p>1.「自ら進んで、あいさつができています」生徒は80%、教職員は58%とコロナ禍で常時マスク着用の中、自主的なあいさつができるようになってきている。</p> <p>2. 学校生活アンケートの活用や学級での個人面談を実施により、生徒が「教職員に相談できる」が80%を超え、昨年度より改善されたといえる。</p>	<p>○生徒の朝の登校時間が早く、遅れて登校している生徒をみかけなくなった。</p> <p>○生徒指導やしつけなど形をしっかりと指導していくのと、家庭での指導もしっかり行って欲しい。学校と保護者と連携して生徒指導を行っていくことが大切である。</p>	<p>○あいさつは身につけてきたが、時と場合に応じたあいさつやコミュニケーションスキルを高めるための工夫が必要である。</p> <p>○学校生活アンケートの活用やスクールカウンセラーとの連携を充実させるとともに個人面談や学年の教職員による観察を強化する。</p>
道徳・人権教育	<p>1. 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分がある事に感謝し、行動や言葉を通じてそれに答えられる生徒を育てる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重し、民主的な社会を築く実践力を身につけた生徒を育てる。</p>	<p>1. 道徳の時間において、思いやりや感謝の心をはぐくみ、自分の言葉で相手に伝える実践力を育てる指導内容・方法の工夫・改善を図る。</p> <p>2. 「津田中生みんなが幸せになる」ために自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。</p>	<p>1.「ありがとう・すいません」などの言葉をきちんと相手に伝えることができた」と答える生徒が90%以上となる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。</p>	<p>1.「ありがとう・すいません」などの言葉をきちんと相手に伝えることができた」と答える生徒が96%で目標値の90%以上を越えていた。</p> <p>2.自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」と答える生徒が96.4%で、目標を上回ることができた。</p>	<p>○「ありがとう・すいません」などの言葉が言える生徒が多いのは、部活を通して指導ができてきた結果だと思う。</p> <p>○「生徒は学校が楽しい」と答えた教職員と保護者との差があり、保護者が学校への期待や希望にギャップがあると思う。</p>	<p>○道徳科と人権学習のつながりが、より効果的な学習になるよう、生徒の実態や学校の特性等も考慮して年間計画を再考する。</p> <p>○コロナ禍で起こった人権課題等、環境に即した指導教材の作成や研究を行う。</p>
特別支援教育	<p>1. 学校生活や学習に困難を有する生徒への理解を深め、適切な支援を計画・実施する。</p> <p>2. 特別支援学級に在籍する生徒の、指導の充実を図る。</p> <p>3. 特別支援教育に関する教職員の理解を深め、校内支援体制を確立する。</p>	<p>1. 保護者との連携を密にし、保護者の思いや願いを受け止めた指導・支援を行う。巡回相談の活用や外部機関との連携を図り、支援の充実を目指す。</p> <p>2. 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、効果的に活用する。</p> <p>3. 校内支援委員会を適宜開催し、学校全体や学年など、チームとしての支援の充実を図る。</p>	<p>1. 具体的に支援の目標を立てて実行する。引き継ぎシート等、情報を学年・学校で共有する。積極的に外部機関との連携を図る。</p> <p>2. 指導項目の5割はAの評価ができるようにする。</p> <p>3. 校内支援委員会を年間3回以上開催する。学年会を活用して、学年での校内支援をすすめる。</p>	<p>1.支援の必要な生徒に対して、引継ぎシートの情報を学年・学校で共有するとともに、れん面談や巡回相談等を活用した支援に取り組むことができた。</p> <p>2.教職員の95%以上が「個性に応じた指導と配慮を工夫している」と回答した。</p> <p>3.職員会を活用し校内支援委員会を6回開催できた。通常学級に在籍する、支援を要する生徒の状況共有の体制を整えた。</p>	<p>○今後も支援を必要とする生徒に対して、手厚い配慮や保護者とのニーズを聞き、取り組んで欲しい。</p>	<p>○生徒の特性や状況などを、学年・学校として共有していく。</p> <p>○全ての生徒にわかりやすいよう、教室環境や授業展開においてユニバーサルデザインを心がける。</p> <p>○教職員、保護者、スクールカウンセラー、医療機関、巡回相談、その他の連携を密し、様々な要望や状況への対応力を高める。</p>
健康・安全指導	<p>1. 自分の心身の発達に関心を持ち、健康の保持増進に努める。</p> <p>2. 校内の危険箇所の発見・修理により安全な学習環境を保持する。</p>	<p>1. 健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。</p> <p>2. 施設・設備の定期点検を行い、危険箇所の早期発見、早期修理に努める。</p>	<p>1.「心身の健康に気がつけた生活が送れている」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2.「校内の危険箇所をすぐに修理されている」と答える生徒・教員が90%以上となる。</p>	<p>1.「心身の健康や感染症対策に気がつけた生活が送れている」と答える生徒は、89.3%となり、昨年度より10.5%増で達成することができた。</p> <p>2. 目標値の90%以上には達しなかった。本校の施設・設備が非常に古いため、破損箇所等が多く、修正が追いついていないためと考えられる。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症によって、十分対策や改善がなされている。</p> <p>○通学路についても危険な箇所をもう一度確認し、安全に登下校できるよう対策して欲しい。</p>	<p>1. 月1回の健康力アップ作戦を継続し、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む意欲を育てていきたい。</p> <p>2. 予算の関係がつか範囲で修繕を行い、特に生徒が普段生活する範囲の箇所の修繕を行っていききたい。</p>
開かれた学校づくり	<p>1. 学校経営の方針や教育活動の状況について、保護者や地域の方々に説明し、理解と協力を得る。</p> <p>2. 学校・家庭・地域の連携を深める。</p>	<p>1. 積極的に学校開放を行い、教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学校・学年だよりによる情報発信を積極的に行ったりする。</p> <p>2. 地域の人材を活用したり、地域の行事等に参加・協力したりする。また、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。</p>	<p>1. 週1回以上ホームページを更新するなどして、「学校の様子がわかる」と答える保護者が80%以上となる。</p> <p>2.「学校・家庭・地域が連携できている」と答える保護者・教員が80%以上となる。</p>	<p>1.目標値も80%に達することができた。新型コロナウイルス感染症のため学校からの情報を学校のホームページなどから知ることが多くなったと考えられる。</p> <p>2.目標値の80%には達しなかった。新型コロナウイルス感染症のため家庭や地域との関わる機会が少なくなったと考えられる。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との行事が少なくなっている。地域とのつながりを断つことがないように、新しい方向性を模索し、工夫していく必要がある。</p>	<p>次年度は、新型コロナウイルス感染症対策をふまえてオープンスクールや参観日、またPTA活動の実施に向けて、ともに活動する機会を大切に、チーム津田中学校として、開かれた学校づくりに一層取り組んでいきたい。</p>